

招聘 研究員

氏名	ジアダ リッチ (Giada RICCI)
所属機関等	フランス国立高等研究院 東アジア文明研究センター
受入期間	2016年10月4日～2016年10月24日
指導教員	内田 青蔵 (チューター: 福士 陽子)
研究課題	日本におけるミュージアム空間 博物館・美術館展示デザインのコンセプトと特徴



ミュージアム建築と現代日本の展示への洞察

ジアダ リッチ

パリの東アジア文明研究センター (CRCAO) と横浜の神奈川大学非文字資料研究センターの短期学術交流プログラムによって、2016年10月4日～24日にわたり招聘研究員として日本に滞在した。今回の滞在の目的は、私の論文テーマ「現代日本のミュージアム建築の空間言語—アートミュージアムにおける展示デザインと作品陳列のコンセプトおよび特徴」の研究を進めるのに加え、将来的に英仏両語で日本の博物館学に関する研究を発表するための資料を収集することであった。

この場を借りて招聘研究員への志願を支援してくれたCRCAOのニコラ・フィエヴェ教授に感謝の意を表するとともに、日本に招聘いただき滞在中に円滑なサポートを提供してくれた非文字資料研究センター長の内田青蔵教授および神奈川大学と非文字資料研究センターの職員にお礼申し上げる。

研究では非文字文化としての建築空間の活用という視点から、アートミュージアムや展覧会における日本的な実践方法を考察した。例えば展示デザインを概念から感じ方に至るまで、また今日までの芸術作品および資料の展示方法を考察している。また現代のアートミュージアムおよび展覧会を解明する糸口として、伝統的な美学や空間コード、江戸時代の初期の美術品展覧、明治時代における日本のミュージアムの原点に触れ、最後に日本にある最新のアートミュージアム数例に焦点を当てている。

日本の現代ミュージアムに固有の特徴を理解するために、博物館学のスキルに加えて建築家や展示デザイナーとしての経験も活かしながら主要な資料の研究やミュー

ジアムの分析評価に取り組んだ。文字資料から得た情報を補うために、美術館・博物館館長、学芸員、文化機関代表、建築家、展示デザイナー、制作会社といった日本のミュージアム専門家との面談やインタビューも実施した。

神奈川大学非文字資料研究センター招聘研究の暫定スケジュールに従い、滞在1週目は図書館での調査と資料収集、ミュージアム訪問の準備、さらにインタビューや面会のスケジュール調整に費やした。こうした活動を主に神奈川大学や非文字資料研究センター、横浜や東京の他の機関・図書館で行った。

2、3週目は予定通りに日本全国にある美術館を電車で巡って評価を実施し、その中でそれぞれの代表者と面談して専門家としての意見を聴きとり、利用者体験なども調査した(東京、京都、横浜、青森、十和田、浜松、豊島(香川))。建築家へのインタビューでは、ミュージアム建築と展覧会・展示デザインを創造するうえでのテーマを論じた。

1) 日本のアートミュージアム、展覧会、展示方法に関する図書館研究

- 神奈川大学図書館 (神奈川県横浜市)
- 東京国立博物館資料館 (東京都台東区上野公園)
- 国立近現代建築資料館 (東京都文京区湯島)
- 東京藝術大学附属図書館 (東京都台東区上野公園)
- 東洋文庫 (東京都文京区)





●写真1 驚きの明治工芸展 東京藝術大学大学美術館



●写真2 藤森照信氏との記念撮影

2) 研究期間中にアセスメント・評価のために訪問した日本のミュージアム（常設、企画、特別展示の視察も含む）

- 青森県立美術館（青森県）
- 秋野不矩美術館（静岡県浜松市）
- 東京国立博物館法隆寺宝物館（東京都台東区上野公園）
- 東京国立博物館本館、平成館、東洋館（東京都台東区上野公園）
- 京都市美術館（京都府京都市）
- 東京藝術大学大学美術館（東京都台東区上野公園）
- ねむの木こども美術館（静岡県掛川市）
- 豊島美術館（香川県豊島）
- 十和田市現代美術館（青森県十和田市）
- 東洋文庫ミュージアム（東京都文京区）
- 横浜美術館（神奈川県横浜市）

3) ミュージアム学芸員、文化機関代表との面談およびインタビュー

- 明治大学博物館史教授（東京都千代田区神保町）
- 秋野不矩美術館館長（静岡県浜松市）
- 渋沢史料館館長（東京都北区）
- 東洋文庫学芸員（東京都文京区）
- 十和田市現代美術館学芸員（青森県十和田市）

インタビューでの質問サンプル

- ・ミュージアムでの経験や個人的な意見に基づき、日本のミュージアムに特有の特徴を挙げてください。
- ・日本の伝統的建築や空間の使い方でも参考にしているものを教えてください。

- ・現代の日本のミュージアムは、芸術を体験する場または社会的な交流の場になっているとお考えですか。
- ・床の間の飾りなど掛け軸や美術品を飾る伝統や展示手法は、今日のミュージアム展示においても活かされていると思いますか。
- ・背景と芸術作品や資料の鑑賞をたどって進む展示ルートは、空間と時間における移動の過程である伝統的な「間」の概念や他の美的伝統と関連していると思いますか。
- ・展覧会とは、様々な展示手法によってコンテンツや意味を伝達するコミュニケーションであると捉えていますか。

4) 建築家、展示デザイナー・会社との面談およびインタビュー

- 藤森照信（建築家・江戸東京博物館館長）
- 木下史青（東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長）

インタビューでの質問サンプル

- ・ミュージアムをデザインする際にプロジェクトへはどのようなアプローチをとりますか。
- ・建築デザインにおける自然や屋外・屋内空間のつながりの重要性を頻りに強調されています。この考えをミュージアムではどのように実現していますか。
- ・今回のミュージアムプロジェクトにおける建築、自然、芸術作品の関係性はどのように表現できますか。
- ・デザイン、特にミュージアムデザインにおける素材の選び方について教えてください。
- ・日本の伝統的建築をどのような形で参考にしていますか。





●写真3 神奈川大学での発表

- ・床の間の飾りなど掛け軸や美術品を飾る伝統や展示手法の一部は、今日のミュージアム展示においても活かされていると思いますか。
 - ・ミュージアムのルートや展覧会順路は、日本の文化である「間」に見られる時間と空間における移動の過程と捉えていますか。
 - ・展覧会の空間デザインとは、様々な展示手法によってコンテンツや意味を伝達するコミュニケーションを支えるものであるとお考えですか。
 - ・スタイル、形状、量感においてオリジナリティあふれるあなたの建築（ときには地元の素材を使ったり、工芸の技を活用したりするなど）は、異なるタイプの芸術作品の展示に対応していますか。
 - ・欧州のミュージアム、より広義には国際的なミュージアムとは一線を画す、現代の日本のミュージアム独自の特徴を挙げてください。
- 5) 今回の招聘研究の一環として、2016年10月23日に神奈川大学において「現代日本のミュージアム建築の空間言語—アートミュージアムにおける展示デザインと作品陳列のコンセプトおよび特徴」というテーマで講義を行った。

講義では、日本の現代アートミュージアムにおける空間の言語という概念を江戸時代の伝統的な美学や空間コードに通じる特徴として考察しながら、寺院や民家の床の間でのひな祭りや美術品の飾り、絵画公開や展覧会の起こりとなったもの（絵解き、開帳、見世物、虫干し、物産会、絵馬堂など）を検討し、次に明治時代の日本のミュージアムの原点（19世紀の西洋のミュージアムをモデルとして建築）を考察した後に、現在のミュージアム建築と芸術品・資料の展示方法について言及した。ま

た、19世紀末と20世紀半ばに日欧混合の建築家チームによって建設された主要なアートミュージアムを取り上げた。具体的にはジョサイア・コンドルが片山東熊らと設計した上野公園の東京国立博物館の旧本館と、ル・コルビュジェ、前川國男、坂倉準三、吉阪隆正が建設した国立西洋美術館であり、これらの日本人建築家たちはその後日本の建築界を率いる中心人物となっている。

日本のミュージアムに特有の建築上の特徴と、日本の伝統的建築に見られる空間コードとの関連性を見出すために、今回の研究では日本の現代の建築家（阿部仁史、安藤忠雄、隈研吾、イオ・ミン・ペイ、SANAA [妹島・西沢2人のユニット]、妹島和世、西沢立衛、藤森照信、谷口吉生）により1990年～2015年の間に建設された日本の現代アートミュージアムのいくつかに焦点を当てた。

講義で取り上げた主要なミュージアムを開館年順に下記にまとめた。

- 国立西洋美術館（東京都上野）ル・コルビュジェ、前川國男、坂倉準三、吉阪隆正、1959年
- ミホ・ミュージアム（Miho Museum）（滋賀県信楽）イオ・ミン・ペイ、1990年
- 秋野不矩美術館（静岡県浜松市）藤森照信、1997年
- ベネッセハウスミュージアム（香川県直島）安藤忠雄、1998年
- 東京国立博物館法隆寺宝物館、谷口吉生、1999年
- 地中美術館（香川県直島）安藤忠雄、2004年
- 金沢21世紀美術館、SANAA（妹島和世、西沢立衛）、2004年
- ねむの木こども美術館（静岡県掛川市）藤森照信、2006年
- 菅野美術館（宮城県塩釜市）阿部仁史、2006年
- 根津美術館（東京都青山）隈研吾、2008年
- 十和田市現代美術館（青森県十和田市）西沢立衛、2008年
- 李禹煥美術館（香川県直島）安藤忠雄、2010年
- 三菱一号館美術館（東京都丸の内）1894年に建設されたジョサイア・コンドル設計の元オフィスビルを2010年に復元して美術館に活用
- 軽井沢千住博美術館（長野県軽井沢）西沢立衛、2013年
- 豊島美術館（香川県豊島）西沢立衛、2014年
- 京都国立博物館平成知新館、谷口吉生、2014年



ジアダ・リッチ。建築家、展示デザイナー、博物館学准教授。伊フィレンツェ大学建築学部卒業後、フランスの大学院で博物館学を修める。個人の建築家として様々な背景のミュージアムやコレクションのタイプに携わり、アジア（日本、中国）、欧州、アラブ諸国、米国においてミュージアム・展示デザインのプログラムの指揮を執る。現在国連教育科学文化機関（ユネスコ）文化局の博物館学・博物館実践学専門家として世界中の博物館プロジェクトを指導・支援するとともに、博物館の研修生に対して専門的な研修プログラムを実施する。また、パリのエコール・デュ・ルーブル第二課程、アラブ首長国連邦（UAE）のパリ・ソルボンヌ大学アブダビ校、パリの国立文化遺産研究所（INP）において展示デザイン・シノグラフィーの准教授として教鞭をとる。

建築家ジアダ・リッチ
展示デザイナー、博物館学者
2017年1月10日、パリ

Insight into Museum's Architecture and Display of Modern Japan

East Asian Civilisations Research Centre Giada RICCI

Within the frame of the short-term Exchange Programme between CRCAO, East Asian Civilisations Research Center in Paris, and HIMOJI, Research Center for Nonwritten Cultural Materials at Kanagawa University, Yokohama, my research residence in Japan took place on October 4-24th 2016. The aim of the residence was to progress on my thesis research theme "The Language of Space in Modern Japanese Museum Architecture: concepts and specific features of exhibition design and artworks display in Art Museums", as well as to gather materials for a future publication on Japanese museology in French and English.

I wish to thank here the Director of CRCAO, Prof. Nicolas Fièvé, for supporting my application to the research residence, the Director of the Himoji, Prof. Seizo Uchida, and the personnel of the Himoji Center for Nonwritten Cultural Materials and Kanagawa University, for the kind invitation and efficient support during my stay in Japan.

Approaching the use of architecture space as a non-written cultural aspect, my research considers Japanese practices in art museums and exhibitions, such as the exhibition design from concept to perception, and the display of artworks and objects, up to the present day.

In order to shed light on modern art museums and exhibitions, the research includes the traditional aesthetics and codes of space, the early art exhibitions in Edo Era, and the origins of Japanese museums in Meiji Era, before focussing on a few examples of recent museums of Art in Japan.

By applying my skills in museology, as well as my architect and exhibition designer experience, in order to reach an understanding of the specific features of Japanese modern museums, I have proceeded to the study of key sources and to the analytic assessments of museums. The information from written sources is completed by meetings and interviews with museum specialists in Japan, such as museum directors and curators, cultural institutions representatives, architects, exhibition designers and production companies.

As planned in the provisional schedule for the research residence at the Himoji Nonwritten Cultural Materials Research Center and Kanagawa University, the first week of the stay was dedicated to conduct library research and documentation collecting, museum visits organisation, as well as interviews and appointments scheduling. These activities mainly took place in Kanagawa University and Himoji Research Center, and other institutions and



libraries in Yokohama and Tôkyô area.

The second and third weeks were dedicated to traveling through Japan by train in order to reach museums for visits and assessments, as planned, including meetings with site representatives, to collect their specialist opinions and user experience of their respective institutions. Within Japan, the locations of Tôkyô, Kyôto, Yokohama, Kamakura, Aomori, Towada, Hamamatsu, Teshima, have been reached by train and museums visited during the last two weeks of the research residence. The Interviews of architects touched the themes of creation of museum's architecture and design for exhibitions and display.

1) Library research on Japanese Museums of Art, Exhibitions and Display practices:

- Library of Kanagawa University, Yokohama, Kanagawa;
- Research & information Center, Tôkyô Nat. Museum, Ueno Park, Taitô-ku, Tôkyô;
- National Archives of Modern Architecture, Yushima, Bunkyo-ku, Tôkyô;
- Library of the Tôkyô University of Arts, Ueno Park, Taitô-ku, Tôkyô;
- Tôyô Bunko, The Oriental Library, Bunkyo-ku, Tôkyô.

2) These Japanese museums were visited for assessments and evaluation during the research residence, including the viewing of current permanent, temporary, and special exhibitions:

- Aomori Museum of Art, Aomori Prefecture;
- Akino Fuku Museum, Hamamatsu, Shizuoka Prefecture;
- Gallery of Hôryû-ji Treasures, Tôkyô National Museum, Ueno Park, Taitô-ku, Tôkyô;
- Honkan, Heiseikan, Tôyôkan, Tôkyô National Museum, Ueno Park, Taitô-ku, Tôkyô;
- Kyôto Municipal Museum of Art, Kyôto, Kyôto Prefecture;
- Museum of the Tôkyô University of Arts, Ueno Park, Taitô-ku, Tôkyô;
- Nemunoki Museum, Kakegawa, Shizuoka Prefecture;
- Teshima Museum of Art, Teshima, Kagawa Prefecture;
- Towada Art Center, Towada, Aomori Prefecture;
- Tôyô Bunko, The Oriental Library, Bunkyo-ku,

Tôkyô;

- Yokohama Museum of Art, Yokohama, Kanagawa Prefecture.

3) Meetings and interviews with museum curators and cultural institutions representatives:

- Professor of History of Museums, Meiji University, Jimbochô, Tôkyô;
- Director of Akino Fuku Museum, Hamamatsu, Shizuoka Prefecture;
- Director of Eiichi Shibusawa Memorial Museum, Kita-ku, Tôkyô;
- Curator of Tôyô Bunko, Bunkyo-ku, Tôkyô;
- Curator of Towada Art Center, Towada, Aomori Prefecture.

Interview questions sample:

- From your experience of museums and in your opinion, which specific features of Japanese museums would you point out?
- Which references to Japanese traditional architecture and use of space would you suggest?
- Do you consider the Japanese museums today as an aesthetic or a sociability experience?
- Do you think the traditions and display codes of presenting scrolls and objects, such as in the *tokonoma* display, are still present in the exhibition practices today?
- Do you consider that the exhibition routes as progression through scenes and viewings of artworks and objects, are related to the traditional concept of *ma*, as movement through space and time, or to other traditional codes of aesthetics?
- Do you consider the exhibition as communication of content and meaning through the different ways of displaying?

4) Meetings and interviews with architects, exhibition designers and companies:

- Fujimori Terunobu, Architect and Director of the Edo-Tôkyô Museum;
- Kinoshita Shisei, Head of Exhibitions and Graphic Design, Tôkyô National Museum.

Interview questions sample:

- What is your approach to the project when designing a museum?
- You declared in many occasions the importance of nature and exterior-interior space relationship in your design. How is this applying to your museums?
- How would you describe the relationships between architecture, nature, and the artworks in your museums



projects?

– Can you tell us about your choice of materials when designing, namely in museum design?

– How do you refer to traditional Japanese architecture?

– Do you think that some of the Japanese traditions and display codes of presenting scrolls and objects, such as in the *tokonoma*, are still present in the exhibition practices today in Japan?

– Do you consider museum route and exhibition paths as a progression in time and space, like in Japanese *ma*?

– Do you consider the space design of an exhibition as a support for communication of content and meaning through different ways of displaying?

– Original in forms, shapes and volumes, and in the use of local materials and craft skills, is your architecture adapting to the display of different types of artworks?

– Can you suggest some specific features of Japanese museums today, which make them different from European and more generally international museum practices?

5) Within the framework of the research residence, I gave a lecture on the theme “The Language of Space in Modern Japanese Museum Architecture, concepts and specific features of architecture & display space of Museums of Art in Japan”, at Kanagawa University on October 23rd, 2016.

The lecture developed the concept of Japanese Language of Space in modern Museums of Art, as a thread through the traditional aesthetics and codes of space in Edo Era, the *hina matsuri* and the artworks display in the *tokonoma* of the temples and private houses, the first forms of public presentations and exhibitions (such as *etoki*, *kaichō*, *misemono*, *mushiboshi*, *bussankai*, *emadō*, etc.), then the origins of Japanese museums in Meiji Era (as an adaptation of the 19th century Western museum's model), up to the present practices of museum architecture and display of artworks and objects. The lecture included the major Art museums built by Japanese-Western architect teams at the end of 19th century and mid 20th century: the first Honkan of the Tōkyō National Museum at Ueno Park, by Josiah Conder, with Katayama Tōkuma and others; and the National Museum of Western Art, by Le Corbusier, Maekawa Kunio, Sakakura Junzō, Yoshizaka Takamasa, Japanese architects who became afterwards main architecture figures in Japan.

In order to identify the specific architectural features of Japanese museum and their relationship with the codes

of space in traditional Japanese architecture, the research approach then focused on a few examples of modern museums of Art in Japan, 1990-2015, by Japanese contemporary architects: Abe Hitoshi, Andō Tadao, Kuma Kengo, Yeo Ming Pei, SANAA, Sejima Kazuyo, Nishizawa Ryūe, Fujimori Terunobu, Taniguchi Yoshio.

The main museums mentioned in the lecture are presented in the list here below in chronological order by date of their opening to the public:

- Musée d'Art Occidental, National Museum of Western Art, NMWA, Ueno, Tōkyō, by Le Corbusier, Kunio Maekawa, Junzō Sakakura and Takamasa Yoshizaka, 1959;
- Miho Museum, Shigaraki, Kyōto Prefecture, by Yeo Ming Pei, 1990;
- Akino Fuku Museum of Art, Hamamatsu, Shizuoka, by Fujimori Terunobu, 1997;
- Benesse House Museum of Art, Naoshima, by Andō Tadao, 1998;
- Gallery of Hōrjūji Treasures, Tōkyō National Museum, by Taniguchi Yoshio, 1999;
- Chichu Museum of Art, Naoshima, Kagawa Prefecture, by Andō Tadao, 2004;
- 21st Century Museum Kanazawa, by SANAA, Sejima Kazuyo, Nishizawa Ryūe, 2004;
- Nemunoki Museum, Kakegawa, Shizuoka, by Fujimori Terunobu, 2006;
- Kanno Museum of Art, Shiogama, Miyagi, by Abe Hitoshi, 2006;
- Nezu Museum of Art, Aoyama, Tōkyō, by Kuma Kengo, 2008;
- Towada Museum of Art, Towada, Aomori, by Nishizawa Ryūe, 2008;
- Lee Ufan Museum of Art, Naoshima, Kagawa, by Andō Tadao, 2010;
- Mitsubichi Ichigokan, Marunouchi, Tōkyō, originally an office building by Josiah Conder, built in 1894, rebuilt as a museum in 2010;
- Hiroshi Senju Museum of Art, Karuizawa, Nagano by Nishizawa Ryūe, 2013;
- Teshima Museum of Art, Teshima, Kagawa, by Nishizawa Ryūe, 2014;
- Heisei Chishinkan Wing, Kyōto National Museum, by Taniguchi Yoshio, 2014.

Giada Ricci: Architect, Exhibition designer, Associate



professor in Museology, graduated as an architect at Florence University, Italy, followed postgraduate museum studies in France. As an independent architect and approaching various museum contexts and collection types, she has led museum and exhibition design programmes in Asia (Japan and China), Europe, Arab States and America. Currently Expert in Museology-museography for UNESCO, Culture Sector, advising and following up museum projects worldwide, also performing specialized

training programmes for museums trainees. Currently Associate professor in Exhibition design and Scenography, Master II level, at the Ecole du Louvre, Paris, and at Paris Sorbonne University Abu Dhabi, UAE, as well as at INP, Institut National du Patrimoine, Paris.

Architect Giada Ricci
Exhibition designer, Museologist
Paris, January 10th, 2017

